

次ページへ続く

Continued on next page...

稀本零葉集四種索引稿

はじめに……………	247
凡例……………	248
稀本零葉集総覧……………	249
稀本零葉集四種細目……………	249
(1)古梓残葉(別本)……………	252
(2)反故草子前集……………	256
反故草子後集……………	262
(3)新編反故草子……………	267
(4)落葉籠……………	276
書名総合索引……………	280

竹 下 義 人
 樹 下 文 隆
 渡 辺 守 邦

はじめに

本稿は稀本零葉集——零本になった稀本を解体し、一葉ごとを貼り込んで作った見本帖——を蒐め、零葉の総合書名索引を作り、もって国文学の資料としての利用を計る試みの一環である。前々号以来続けて三回を数えるに至ったが、今回、編者に入りがあつた。島原泰雄氏を皇学館大学助教授に、母利司朗氏を岐阜大学助教授に送り出し、後任の竹下義人、樹下文隆の二人が、後を引き継いだ。

採りあげることのできた零葉集は四種であるが、そのいずれについても、あらかじめお断りしておかなければならないことがある。

まず『古梓残葉(別本)』であるが、これは、前回にも採りあげたものの。この零葉集は、『古梓残葉』の残余を用い、いわば再版のごとくに作られたものであつた。その当然の帰着として、不足をきたす零葉があ

ったりして、必ずしも全葉が揃っているとは限らない。実は、前回用いた底本も、その弊を逃れられないものであった。今回底本を替えて十全を期するとともに、前回、記述を簡略にした『古梓残葉』と重複する零葉について、改めて細目を記した。

次に『反故草子』『新編反故草子』であるが、どちらも堀田章男氏の編、シリーズをなすものであって、本来は一点と数えなくてはならないものかもしれない。この零葉集については、前回、書目の一覧だけを載せ、とくに『新編反故草子』の巻数に不審の残ることを述べた。その後、編者の堀田章男氏にお目にかかってお尋ねし、過去の記録を調べていただいたりしたが、やはり前号「あとがき」に記した以上のことは分からない。それゆえ、『反故草子』前・後集二冊、『新編反故草子』第一・二・六・七巻四冊をもって完本と見做すことにした。最近、『反故草子』前集を得て、全六冊を資料館に揃えることができたことも、今回採りあげた動機になっている。

最後は『落葉籠』である。この、いかにも稀本零葉集らしい、洒落た名称の一帖は、編者も製作年時も明示がなく、詳細は不明ながら、どうやら、頒布を目的に作られたものではなく、なさそうである。しかし、ほとんどのページを古活字版が占める内容の質と、解説に窺われる編者の見識の程は、他の零葉集に劣るものではなく、除外してしまうのは惜しい。よって、いわば番外としてこの企画に加えた。

以上、今回の各編について、あらあらを述べたが、併せて、次回にまわさざるをえなかった『もとがしは』についても、一言しておきたい。

石田元季氏にこの一編のあったことについては、前回の「あとがき」にも触れたが、特にお願ひして、愛知県立大学小沢文庫蔵本を調査させていただくことができた。しかしこの一本は、所収零葉について、解説をいっさい記さないところから、作品名、版種等の考証に手間取り、残念ながら、時間的に間に合わせる事が出来なかった。せっかくの御好意を生かしえなかったことをお詫びするとともに、この零葉集に関する所在、その他の情報を得たく、これは広く読者諸賢に、お願いする次第である。

恒例に従って、凡例の後に、零葉集総覧(所蔵者一覽)を添えて、終ることにする。

凡例

一 稀本零葉集のうち、今回調査の及んだ四種について、零葉ごとの細目を記し、書名索引を添えた。

一 今回取りあげた稀本零葉集とその略号は次のとおりである。

別	——古梓残葉(別本)	昭4	禿氏祐祥	二冊
反前	——反故草子前集	昭12	堀田章男	一冊
反後	——反故草子後集	昭17	同	一冊
新	——新編反故草子	昭19	同	四冊
落	——落葉籠	不明	不明	一冊

一 零葉集ごと、細目の前に、その集を説明した小文を置くとともに、

図影を載せた。

一 零葉集ごとに、所収の零葉に、整理番号を与えた。『反故草子』および『新編反故草子』にあつては、一編ごとに通し番号を改めた。

一 零葉ごとの書誌は、おおむね次のごとくである。

書名 刊写の別 原本の書型および冊数

版種 刊年 匡郭およびその寸法（無辺の場合は字高） 半丁

行数（古活字版は一行の字詰めと仮名の種類も記す） 界線

柱刻 刊記 その他

版種は、整版本の場合、記載を省いた。

一 刊年・刊記等は、原則として底本の解説に従い、明らかな誤りにつ

いてのみ訂正をし、冊数その他の注記のない場合、省略した。なお、

「解説」とは、零葉集ごとに添えられた説明文を言う。書名・刊写年

のみの、目次程度のことも少なくないが、便宜この名称を用いる。

一 索引は、各零葉の書名を、現代仮名づかいによる読みに従い、五十

音順に配列した。

一 索引の書名は、細目の標題に従ったが、一部については、統一書名

を設けた。この場合、〈カラ見出し〉を用いて、検索の便を計った。

一 索引の書名に刊写年および版式を添えた。

稀本零葉集総覧

【内は略号】

玉屑集

明43、大10 玉屑会 一六冊？

【玉】

慶大「幸田成友博士善本零葉貼込帖」(二三三X一六一八)

古梓残葉

昭4・7 禿氏祐祥編 二冊 杉田大学堂刊

【梓】

京大(八一五八・大別・コニ)

龍大(〇三三二七八)

慶大(一九X一四四一二)

大谷女大(K〇二二・三一K)

古梓残葉別本

昭4・9 禿氏祐祥編 一冊 杉田大学堂刊

【別】

横国大(〇二二三一一)

中之島(一一三四二)

国資(リ三一八)

個人蔵

古雕聚葉

昭5 平塚運一編 一冊 天心堂画房刊

【雕】

京大(八一五八・大別・コニ)

個人蔵

蛾眉公子

昭6 一誠堂玉屑会 二冊

【蛾】

東京誌料(〇〇二七―二二)

三康(一別―B五八)

天理(〇一―ター七(―二〇七))

早大(イ―一九四三―一―二)

慶大(二二X―六七―二)

個人蔵

古活字版拾葉 昭10 訪書会 二冊

東京誌料(〇〇二七―一六)

天理(〇一―ター九(―二八八))

香大神原(〇二二・三)

慶大(三三X―一八―二)

【活】

倭刊聚葉第一輯 昭8 齋藤昌三編 二冊

東京誌料(〇〇二七―二一)

九大(〇一〇―ワ―五)

天理(〇一九―ター三三(―一八〇二))

慶大(一四三―五八)

早大(イ―一八三〇―一―二)

国資(ラ三―一六)

【倭】

紙魚玉屑集 昭12 紙魚玉屑頒布会 一帙

横国大(〇二二三―一三)

国資(リ三―一四)

【紙】

反故草子前集 昭12 堀田葦男編 一冊

慶大(三四X―七七―一)

国資(ラ三―一〇)

【反前】

稀本零葉 昭8 訪書会 五冊

国会(〇二二・三・Ki―一四―一)

【稀】

名家真蹟譜 昭13 訪書会 一冊

国会(七二八・一―M四四八―H)

稀本零葉別集 訪書会 一冊

慶大(三四X―一四―一)

早大(イ―一九三六)

個人蔵

【集】

もとかしは 昭15 石田元季編 一冊

愛知県大

個人蔵

反故草子後集 昭17 堀田葦男編 一冊

【反後】

古版本聚芳 昭55 文車の会 二冊

【版】

愛知県大(貴〇九〇―二三)

国資(リ三一〇)

国資(ラ三一〇)

個人蔵

新編反故草子 昭19 堀田葦男編 四冊?

【新】

歴代古紙聚芳 昭57 文車の会 四冊

国資(ラ三一―二)

早大(ム一―三四八二―四)

国資(レ二―二)

古今紙譜 訪書会 一冊

国会(〇二三・ハ―ko五四―H)

紙魚のなごり 昭31〜44 和本研究会 五冊

古活字版聚芳 昭40 文車の会 二冊

【聚】

早大(イ二―三三四三―二)

国資(リ三一―一)

浮世草子聚芳 昭46 文車の会 二冊

【浮】

国会(W九九―一七九)

茨城県歴史館(五―二二)

国資(リ三一―二)

個人蔵

古梓残葉(別本)

(略号——「別」)

一卷一冊(別に「古梓残葉解説」なる小冊子を付す) 禿氏祐祥編 昭和四年九月 杉田長太郎発行 新村出題字 限定十二部

支那朝鮮之部、日本前期の部(室町期まで)、日本後期の部に分つて、全三十四種三十六葉を収める。同年七月発行の「古梓残葉」の好評に応えるべく、残余を集めて作ったもの、という。それゆゑ発行部数が極端に少なく、また零葉の数も少ない。その結果として元禄四年の刊本が下限となり、前集に比べて、よりタイトルにふさわしい内容となった。また残余の不足を補うべく、4「四分律行事抄」(宋版)と28「保元物語」(寛永三年刊丹緑本)が新たに加えられている。とくに後者は筆彩の挿絵の丁を添えているが、それが可能になったのも、発行部数が限られていたためであろう。

底本——国文学研究資料館(リ三一八)

初集 支那朝鮮之部

1 四分律 刊

宋版 元府二年刊 单辺 天地24・4センチ 一行十七字 所収

の零葉は卷五十八 福州東寺版大蔵経のうち 三聖寺旧蔵

2 雜阿含経 刊

宋版 紹興二年頃刊 单辺 天地24・9センチ 一行十七字 湖

州本大蔵経のうち 継合せに「不 雜阿含経四十九 二 万漈」

と刻するといふ 「万漈」は刻工

3 大般涅槃経 刊

宋版 無辺 字高23・2センチ 一行十七字 大蔵経のうち 所収の零葉は卷四十 鶡飼徹定、谷村一太郎旧蔵

4 四分律行事抄 刊

南宋版 单辺 23・4センチ 一行十九字 三行分の断片ゆゑ、

装訂その他を明らかにしない

5 新編事文類聚翰墨全書 刊 巾箱本

元版 左右双辺 15・6×10・2センチ 半丁十四行 有界 柱

刻「啓□□七」

6 周礼註疏 刊 大本

明版 正徳年間刊 四周单辺 20・3×12・8センチ 半丁九行

有界 柱刻「周疏四十 十六 張尾」 柱刻下部の「張

尾」は彫工名か 「十三経注疏」のうち

7 海意菩薩所問浄印法門経 刊 大本

明版 万曆三十六年刊 四周双辺 22・1×14・4センチ 半丁

十行 有界 柱刻「経 海意菩薩所問浄印法門経卷七 九」

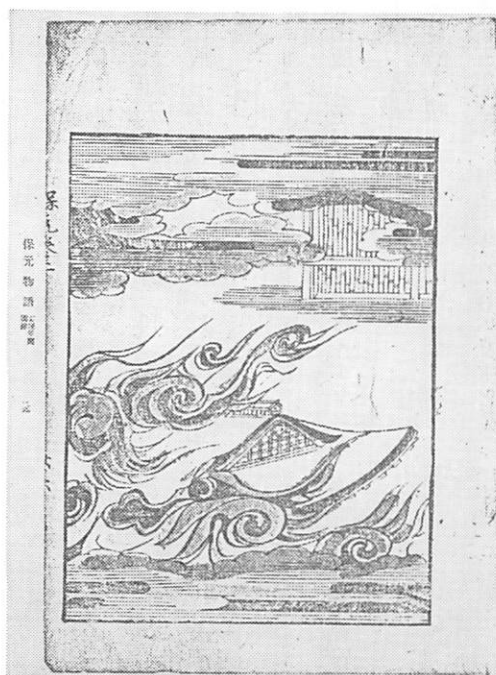
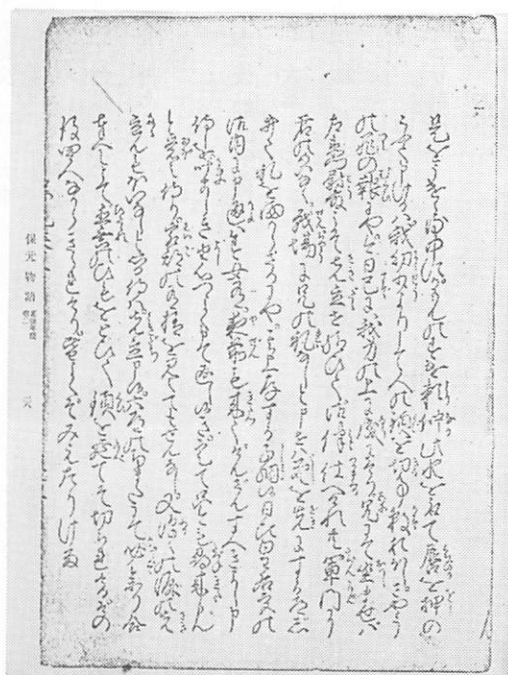
方册十二本大蔵経のうち

8 冊府元龜 刊 大本

明版 崇禎年間刊 四周单辺 19・0×13・7センチ 半丁十行

有界 柱刻「冊府元龜命□□ 卷之二百一十三 □□」

9 水経 刊 大本



明版 天啓年間刊 左右双辺 19・9×13・5センチ 半丁九行

有界 柱刻「水経 卷下 二十一」 「漢魏叢書」のうち

10 地理大全 刊 大形本

朝鮮古活字版 四周双辺 21・2×14・9センチ 半丁九行十七

字 柱刻「門庭一 二十六」 銅活字本

11 標題句解孔子家語 刊 大形本

朝鮮版 四周单辺 22・6×16・4センチ うち上部2・8セン

チを横線で区切って音注を付す 半丁十行 有界 柱刻「家語中

二十一」

日本前期之部

12 摺仏 刊

平安中期版 仏像一軀の寸法4・2×3・0センチ前後 浄瑠璃

寺胎内出現という 单弁

13 釈摩訶衍論記 刊 大本

高野版 正応元年刊 無辺 字高20・5センチ 半丁七行 柱刻

「尺記四 廿八」 両面刷粘葉装 刊記「為報仏恩酬祖德謹開

印板伝之来葉／正応元年_子六月 日 沙門慶賀」

14 大般若経 刊

春日版 無辺 字高20・0センチ 一行十七字 所収零葉は卷百

六十

15 仁王般若経 刊

東寺版 文安元年覚増刊 無辺 字高21・2センチ 一行十七字
所収零葉は巻上

16 王状元集註諸家分類東坡先生詩 刊 大本

五山版 左右双辺 19・2×12・7センチ 半丁十一行 有界
柱刻「□□ 二十六」

17 碧巖録 刊 大本

五山版 左右双辺 18・3×11・4センチ 半丁十一行 有界
柱刻「碧巖十 十」

18 浄土名目図 刊

永正五年版か 無辺 字高19・0センチ

19 蓮如上人御文 刊 大本

文祿慶長頃版 無辺 字高22・5センチ 半丁七行 片かな交じり
り 丁付はウラのノドにあるというが不明 巻尾に准如上人の署名花押あり

後集 日本後期之部

20 史記 刊 大本

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 22・9×17・4センチ 半丁八
行十七字 注文双行 有界 柱刻「史記 紀十二 十三」い
わゆる伝嵯峨本

21 太平記 刊 大本

古活字版 寛永元年刊 無辺 字高23・8センチ 半丁十一行二

十字 平がな交じり 漢字は付訓活字 丁付はオモテのノドに
「廿六 二十三」 刊記「干時寛永元年南呂下旬 開版之」

解説に元和二年版とするが失考 元和二年版は十二行片かな交じり

22 城西聯句 刊 横本

古活字版 元和四年木室二兵衛刊 無辺 字高11・5センチ 半
丁十三行十二字 作者名(一字)は小型活字 柱刻「九千句上
十八」 一丁のオモテ・ウラを切り離して上下段に貼付

23 三体詩法 刊 大本

古活字版 寛永三年木室二兵衛刊か 四周双辺 19・5×14・4
センチ 半丁八行十五字 有界 柱刻「三体詩 二十五」所
収零葉は巻一

24 涅槃経疏 刊 大本

古活字叡山版 寛永頃刊 四周双辺 22・8×16・4センチ 半
丁十一行二十字 柱刻「涅槃疏一 二十二」

25 袖保隠道鈔 刊 大本

古活字高野版 寛永頃刊 無辺 字高21・3センチ 半丁九行二
十字あるいは二十一字 片かな交じり 別に送りがな(本文右
側)、返り点(同左側)を小形活字で行間に組んだ付訓植版
「ナル」「スル」など片仮名の連続活字が使用されている

26 源平盛衰記 刊 大本

古活字版 寛永頃刊 四周双辺 22・6×16・6センチ 半丁十
二行二十六字前後 片かな交じり 漢字は付訓活字 字間に句点
を植字する 柱刻「盛衰記卷四十四 廿」 いわゆる寛永の乱
れ版

27 摩訶般若波羅蜜經 刊 折本

古活字天海版 寛永頃刊 単辺 天地22・2センチ 一行十七字
繼合せて「鹹 摩訶般若二十一 十一」とある 寛永寺版大藏
經のうち

28 保元物語 刊 大本三冊

寛永三年版 丹緑本 無辺 字高21・9センチ 半丁十二行 柱
刻「保元卷二 三十一」 別に挿絵(筆彩色)の半丁が添えら
れる。挿絵は四周単辺20・4×16・4センチで、柱刻に「保元卷
二 廿六」とある 解説に正保年間版とするが、版式に従って
改めた

29 三世相 刊 大本

明暦頃版 四周単辺 22・8×18・1センチ 行数不定 文中に
挿絵を多数交える 柱刻「三世相巻下 □□」 覆朝鮮版か

30 曾我物語 刊 大本

寛文十一年版 四周単辺 22・2×16・6センチ 半丁十五行
柱刻「曾我物語卷第四 二十四」 江戸版

31 謡本 刊 半紙本

延宝五年京山本源太郎版 無辺 字高17・0センチ 半丁七行

丁付がウラのノド上部に「七ノ一」 下部に「たつた五」とある 観世流
百番のうち「龍田」

32 百人一首像讚抄 刊 大本

延宝六年江戸鱗形屋版 四周単辺 22・9×16・0センチ 半丁
行数不定 柱刻「三十四」 下部右側に歌人名、和歌、肖像を歌
かるた式に、左側に、和歌の趣きを描いて挿絵とする

33 三無性論 刊 大本

寛文天和頃版 四周双辺 21・6×14・0センチ 半丁十行 柱
刻「論 三無性論巻上 二十一 浦九」 いわゆる鉄眼版大
藏經のうち

34 つれづれ草 刊 大本

元禄四年版 四周単辺 23・4×16・7センチ 半丁十二行 柱
刻「つれづれ上 九」 上部五・六センチを区切って挿絵を施
す

反故草子 前集

(略号「反前」)

一冊 別に解説一枚 堀田葦男編ならびに解説 昭和十二年 発行部数
限定二十部 頒価二十円

正式書名は『^{絵入本}零葉集 反故草子』。書名が示すごとく、本集は絵入版本の零葉を集成したものである。仮名草子・浮世草子を中心に、寛永から天保頃までに刊行された版本の零葉、全五十種六十四葉を収める。当然のことながら、所収零葉すべてが絵入というわけではないが、別刷の解説によれば、編者の興味はもっぱらこの挿絵の方にあつたものようである。排列はおおむね刊年順で、見開き左頁に半丁分の零葉を貼付し、右頁に編者自筆の解説を記す。ほかに付録として短冊(表紙)と本の袋を各一枚、題簽付きの表紙を三枚貼付し、帙には編者の蔵書印四種が押されている。帙も含め、料紙にはことごとく反故が利用され、装訂から造本にいたるまですべて編者自身の手になるといふ。まことに滋味ある零葉集のひとつといえよう。

参考までに、底本の第一頁下部に旧蔵書印一顆があり、「玄武洞文庫」と読める。これは千里翁と号した大阪の蔵書家田結莊金治(文化十二年、明治二十九年)のものという。年代的に合わないが、同家で襲用したものか。

なお、今回細目を記すに際し、底本を慶応義塾大学蔵本から当館所蔵本に替えた。そのため、前号で紹介した書目のうち、第46番と第47番との間に貼付零葉の異同と、それにもなう貼付順序の変更が生じているこ

とをお断わりしておきたい。

底本—国文学研究資料館(ラ三一〇)

1 伊勢物語 刊 大本二冊

寛永頃版 無辺 字高20・4センチ 半丁十行 柱刻なし 別に丁付不明の半丁(挿絵)を貼付 四周単辺 19・2×14・1センチ 二葉ともに墨書の書入れあり 嵯峨本の覆刻版

2 他我身の上 刊 大本六冊

明暦三年版 四周単辺 21・2×15・5センチ ただし横の寸法は折目まで 半丁十一行 柱刻判読不能

3 京童 刊 大本六冊

明暦四年版 四周単辺 21・2×15・3センチ 半丁十一行 柱刻「四巻 十四」

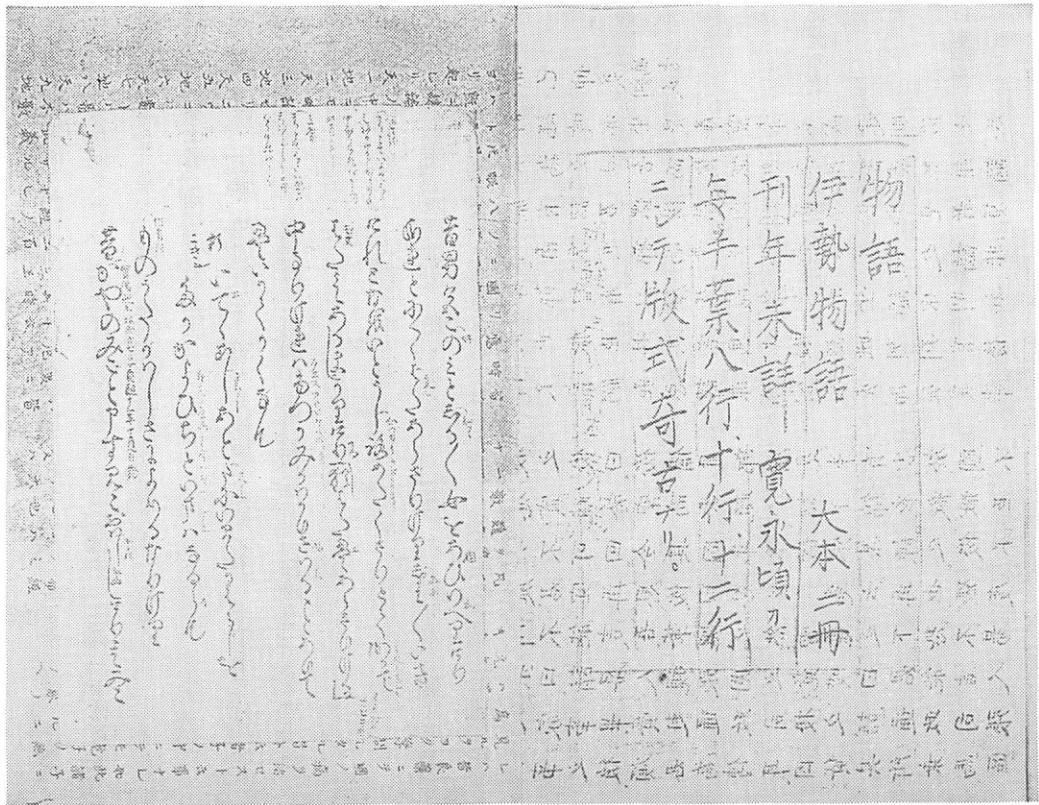
4 女訓抄 刊 大本六冊

万治元年版 四周単辺 21・2×15・5センチ 半丁十一行 柱刻「女訓抄下 廿一」 別に同巻丁付不明の半丁(挿絵)を貼付 解説に「紺色表紙」とあり

5 女諸礼集 刊 大本七冊

万治三年版 四周双辺 20・8×15・3センチ 半丁十一行 丁付はウラのノド中央に「**之巻**」とある 別に同巻第9丁(挿絵)を貼付 解説に「黄色表紙」とあり

6 堪忍記 刊 大本八冊



- 寛文四年版 四周単辺 22・0×16・7センチ 半丁十三行 柱
刻判読不能 別に巻七第17丁（挿絵、柱刻「堪忍記巻七
七」）を貼付 解説に万治年間とするは誤り
- 7 一休はなし 刊 大本四冊
寛文八年版 四周単辺 21・1×15・9センチ 半丁十一行 柱
刻「一休咄 巻四 十四」 別に同巻第12丁（挿絵）を貼付
- 8 義経記 刊 大本八冊
寛文十年版 四周単辺 21・4×16・4センチ 半丁十四行 柱
刻「義経記八 十五」 別に丁付不明の半丁（挿絵）を貼付
- 9 住吉相生物語 刊 大本五冊
延宝六年版 四周単辺 21・7×16・7センチ 半丁十二行 柱
刻「相生物語四 □□」 解説に大本四冊で延宝四年版とする
は誤り
- 10 日本名女咄 刊 大本五冊
天和二年版 四周単辺 22・4×16・1センチ 半丁十四行 柱
刻「女 巻五 三」 『本朝名女物語』（寛文十年刊）の改題
再版本 江戸版
- 11 婦人養草 刊 大本十冊
元禄頃版 四周単辺 20・1×14・7センチ ただし横の寸法は
折目まで 丁付はウラのノド下部に三ノ冊四とある 別に丁付不
明の半丁（挿絵）を貼付 解説は貞享頃版とするが、元禄期の版
であろう

12 一休可笑記 刊 大本六冊

刊年不明 四周単辺 21・9×15・8センチ 半丁十三行 上部

6・5センチに「一休ばなし」を十八行に付す 柱刻「一休可笑

記二 九」解説に「座敷講談ノ角書アリ」とあり

13 本朝桜陰比事 刊 大本五冊

元禄二年版 四周単辺 20・1×15・4センチ 半丁十二行 柱

刻判読不能 別に卷三第20丁(挿絵、柱刻「桜陰卷三 二十」

を貼付

14 「逸題浮世草子」 刊 大本五冊

刊年不明 四周単辺 18・8×センチ 貼付の一葉は半丁

に足りず行数・柱刻等不明 半丁九行か 解説は元禄九年刊『好

色艶虚無僧』と推定 霞亭文庫に卷一のみ伝存するが、同巻には

当該零葉の丁なし

15 由良三郎景村 刊 中本一冊

元禄十四年版 四周単辺 16・3×12・1センチ 半丁挿絵のみ

柱刻判読不能 いわゆる六段本 本文断簡を重ねて貼付 解説

に「土佐少掾橋正勝正本、山椒太夫物ノ一変形ナリ」とあり

16 梶の葉 刊 半紙本三冊

宝永四年版 四周単辺 16・1×10・9センチ 半丁に挿絵と和

歌一首ちらし書 柱刻「中

17 本朝新堪忍記 刊 大本七冊

宝永五年版 四周単辺 19・8×14・8センチ 半丁十三行 柱

刻「堪忍記一 五」 丁付は「十ノ五」と思われる

18 和国玉かつら 刊 大本五冊

宝永六年版 四周単辺 19・7×14・5センチ 半丁十一行 柱

刻「二 」 別に同卷第7丁(挿絵、柱刻「美人鑑二

七」を貼付 解説に「紺色表紙」とあり 『繪本朝美人鑑』

19 風流曲三味線 刊 横本六冊

宝永七年版 四周単辺 10・8×16・9センチ 半丁十五行 柱

刻判読不能

20 傾城禁短気 刊 横本六冊

正徳元年版 三方双辺 ノドの一辺のみ単辺 12・9×19・4セ

ンチ 半丁十四行 丁付はウラのノド下部にノ巻 と

ある

21 諸士興廢記 刊 大本八冊

刊年不明 四周単辺 19・8×14・5センチ 半丁十一行 柱刻

「軍配記 」 享保三年刊『諸家軍配記』の改題本

解説は享保三年版とするが存疑

22 楠三代壯子 刊 大本五冊

享保五年版 四周単辺 20・6×16・0センチ 半丁十二行 柱

刻「二之巻 笠 廿一」 別に同卷丁付不明の半丁(挿絵)を

貼付

23 花実義経記 刊 大本六冊

享保五年版 四周単辺 19・8×14・5センチ 半丁十一行 柱
刻「花実義経」一 九」 解説は冊数を八冊と誤る

24 徒然時世粧 刊 大本六冊

享保六年版 四周単辺 19・6×14・5センチ 半丁十一行 柱
刻「徒然時勢粧卷」六 □十五」 後印か 解説に「麻ノ葉ツ
ナギ文表紙」とあり 書名表記正しくは『徒然時勢粧』か

25 世間手代気質 刊 大本五冊

享保十五年版 四周単辺 20・5×16・2センチ 半丁十二行
柱刻「手代気質卷之一」 □」

26 潤色栄花娘 刊 中本七冊

刊年不明 四周単辺 15・2×10・9センチ 半丁九行 柱刻
「潤色栄花娘卷三」三」 解説に「水色表紙」とあり また冊
数を五冊と記し、享保頃版と推定するが、その根拠不明 明和七
年版か

27 逍遙集 刊 大本三冊

元文頃版 四周単辺 20・1×14・7センチ 半丁に挿絵と発句
一句 作者ともに西湖 丁付「下四十二」 解説に「談林派百人
一句集ナリ。紺色地文表紙」とあり

28 逆沢瀉鑑鑑 刊 大本五冊

寛保元年版 四周単辺 19・9×15・9センチ 半丁十二行 柱
刻「□□卷」十ノ廿」

29 鎌倉諸芸袖日記 刊 大本五冊

寛保三年版 四周単辺 19・7×15・9センチ 半丁十二行 柱
刻「三之巻袖」□ 六」

30 古今役者大全 刊 中本六冊

寛延三年版 四周単辺 15・3×10・6センチ 半丁九行 柱刻
「大全巻三」一」 別如同巻第8丁(挿絵)を貼付

31 百合稚錦嶋 刊 大本五冊

宝曆二年版 四周単辺 19・1×15・1センチ 半丁十二行 柱
刻「百巻之二」六」

32 軽口東方朔 刊 半紙本五冊

宝曆十二年版 四周単辺 18・3×13・2センチ 半丁八行 丁
付はウラのノドに「三ノ四」とある

33 絵本江戸紫 刊 半紙本三冊

明和二年版 四周単辺 17・5×13・1センチ 半丁挿絵上部に
十四行の文章を付す 貼付の一葉は「眉」の項 丁付はウラのノ
ドに「上ノ三」とある 豊信画の絵本 他の零葉で虫損補修のた
めの裏打が施してある

34 倭詞接木花 刊 大本二冊

明和六年版 四周単辺 18・1×13・1センチ 半丁に絵と和歌
上句ちらし書 丁付はウラのノドに「下二」とある 解説に「上
下二巻合一冊」とあり

35 兩月物語 刊 大本三冊

天保・安政頃版 四周単辺 19・4×13・4センチ 半丁十二行

柱刻「雨月 一之四」 解説は安永初年刊と推定し初印のごとくに記すが誤り

36 翠釜亭戯画譜 刊 大本一冊

天明二年版 四周単辺 19・9×12・8センチ 半丁一函 貼付
の一葉は「柴崎林左衛門」似顔絵 柱刻破損

37 京伝工夫小紋裁 刊 半紙本三冊

天明四年版 四周単辺 16・5×11・5 半丁に絵と文を交え行
数不定 丁付オモテになし

38 世上洒落見絵図 刊 中本三冊

寛政三年版 四周単辺 15・3×11・3センチ 半丁に絵と文を
交え行數不定 柱刻判読不能 黄表紙

39 拍掌風草紙 刊 半紙本五冊

寛政四年版 三方単辺 ノドの一边のみ双辺 16・9×13・0セ
ンチ 半丁十一行 柱刻「拍掌奇談卷之四 四」 別と同卷第

12丁(挿絵)を貼付

40 中華手本唐人蔵 刊 中本三冊

寛政八年版 四周単辺 14・1×10・9センチ 半丁に絵と文を
交え行數不定 柱刻判読不能 黄表紙

41 傾城買二筋道 刊 中本一冊

寛政十年版 四周単辺 12・2×8・9センチ 半丁八行 丁付
オモテになし

42 蘭齋画譜 刊 大本八冊

享和元年版 四周単辺 22・2×15・5センチ 半丁一函 貼付
の一葉は「菊」の画 柱刻「南蘋先生画伝」

43 船頭深話 刊 小本二冊

文化三年版 四周単辺 12・4×8・9センチ 半丁八行 丁付
オモテになし 解説は刊年を文化二年と誤記

44 番口切のせりふ 刊 半紙本一冊

文化八年版 四周単辺 15・2×11・0センチ 半丁に絵と二十
五行の文を交える 柱刻「口切のせりふ □四」

45 骨董集 刊 大本四冊

文化十二年版 無辺 半丁一函 貼付の一葉は「丸尽文様雛形二
種」の項 丁付オモテになし

46 春色辰巳園 刊 中本十二冊

天保四年版 四周単辺 14・2×9・9センチ 半丁八行 丁付
オモテになし 貼付の一葉に内題があり、「繪巻春色辰巳園卷の拾

一／江戸 狂訓亭主人著」とする 別に見開き一丁分(挿絵、丁

付はウラのノドに「タツミ二へん口ノ四」を貼付

47 富嶽百景二編 刊 半紙本一冊

天保六年版 四周単辺 18・2×12・6センチ 半丁一函 柱刻
「富嶽百景二編 □」 北斎画の絵本

48 桃山人夜話 刊 半紙本五冊

天保十二年版 四周単辺 16・6×13・4センチ 半丁八行 丁
付はウラのノドに「○八」とある 別と同卷第9丁(挿絵、彩色

柱刻「㊦ニ 〇九」を貼付

49冊 秋の疫覚 刊 半紙本四冊

天保十二年版 四周单边 15・7×11・0センチ 半丁八行 柱

刻「あきのねざめ一 □」

50紀伊国名所図会 大本二十二冊

天保九年版 四周单边 19・9×15・8センチ 半丁一函 丁付

はウラのノド下部に耳を設けて「紀三編四ノ六十四」とある 当

該零葉を含む完本第三編は六卷七冊 解説の嘉永四年版は後編の

刊年

反故草子 後集

(略号「反後」)

判読不能

一冊 堀田葦男編ならびに解説 昭和十七年 発行部数限定二十部

本零葉集は、発行年に五年の開きがあるものの、後集の名のもと、編集方針から体裁等にいたるまで、前出の前集に倣って編まれたものである。

ただし、前集にあつた付録類の貼付は一切省略。内容は、寛永から明和頃までに刊行された絵入版本の零葉、全五十種六十三葉からなり、すべて仮名草子・浮世草子で占められている。

なお、今回底本にした当館所蔵本には、前集に付いていたような別刷の解説はなく、また本集専用の帙もない。これらは、散逸したものと察せられるが、いずれも詳細は不明。かように外見上、いくつかの不備は存するが、一集としての内容的価値は前集となんら変わるところはない。

底本—国文学研究資料館(ラ三一〇)

1可笑記 刊 大本五冊

寛永十九年版 四周单边 21・1×15・4センチ 半丁十一行

柱刻「可笑記巻 五 十一」

2しやかの御本地 刊 大本三冊

寛永二十年版 四周单边 22・0×16・7センチ 半丁十四行

柱刻判読不能

3東海道名所記 刊 大本六冊

万治頃版 四周双边 20・7×15・8センチ 半丁十二行 柱刻

4見ぬ京物語 刊 大本三冊

万治二年版 無辺 字高20・5センチ 半丁十一行 柱刻「中

□□」 別と同巻丁付不明の半丁(挿絵)を貼付

5浅井物語 刊 大本六冊

寛文二年版 四周单边 21・0×16・3センチ 半丁十行 柱刻

「浅井四 □」 別と同巻第10丁(挿絵)を貼付

6京雀 刊 大本七冊

寛文五年版 四周双边 20・2×15・2センチ 半丁十行 柱刻

「京□□巻 □□」

7海上物語 刊 大本二冊

寛文六年版 無辺 字高19・8センチ 半丁九行 柱刻「海一

四」

8因果物語 刊 大本六冊

寛文七年版 四周单边 21・5×15・6センチ 半丁十二行 柱

刻「因□巻六 五」

9浮世物語 刊 大本五冊

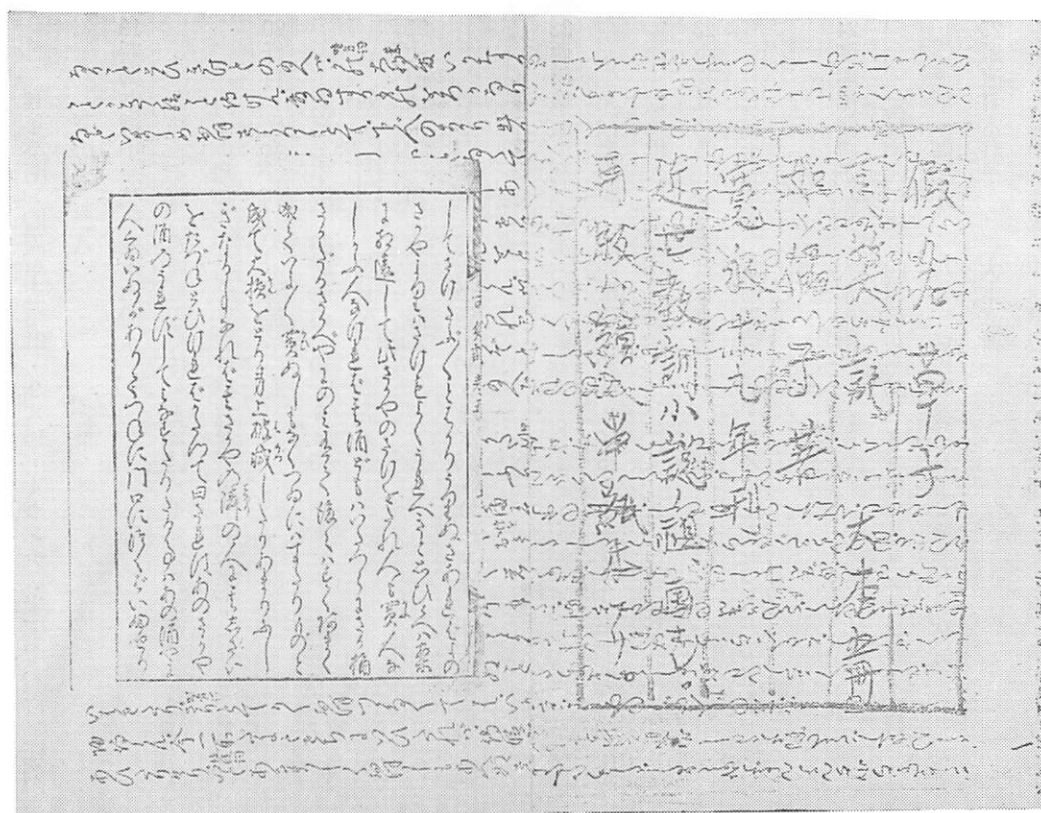
寛文十年版 四周单边 22・1×16・1センチ 半丁十四行 柱

刻判読不能 別に丁付不明の半丁(挿絵)を貼付

10子孫鑑 刊 大本三冊

寛文十二年版 四周单边 22・3×16・4センチ 半丁十五行

柱刻「子 □下 五」



11 あさがほのつゆのみや 刊 大本二冊

寛文頃版 四周単辺 21・8×16・1センチ 半丁十四行 柱刻

「□□ 二七」

12 山城四季物語 刊 大本六冊

延宝二年版 四周単辺 21・5×16・0センチ 半丁十一行 柱

刻「四季二 四」 別に第三卷「又十」丁(挿絵)を貼付

13 出来齋京土産 刊 大本七冊

延宝六年版 四周単辺 20・8×16・2センチ 半丁十三行 柱

刻「卷之六 九」

14 杉楊枝 刊 半紙本六冊

延宝八年版 四周単辺 16・3×11・8センチ 半丁十行 柱刻

「杉一 八」

15 宗祇諸国物語 刊 大本五冊

貞享二年版 四周単辺 19・0×13・9センチ 半丁十一行 柱

刻「宗祇四 四」 別に同巻第3丁(挿絵)を貼付

16 はちかつぎ 刊 大本二冊

宝永二年版 四周単辺 21・4×16・4センチ 半丁十四行 丁

付けはオモテのノド下部にはち下十とある

17 貴船の本地 刊 大本三冊

刊年不明 四周単辺 20・8×15・3センチ ただし横の寸法は

折目まで 半丁十行 柱刻「□□ 四」

18 三国物語 刊 大本七冊

刊年不明 四周単辺 21・9×16・4センチ 半丁十六行 柱刻
「三國三 八」

19 新御伽婢子 刊 大本六冊

天和三年版 四周単辺 19・4×14・4センチ 半丁十一行 柱

刻「新御伽□□□」 別に第六卷丁付不明の半丁(挿絵)を貼付

20 好色一代女 刊 大本六冊

貞享三年版 四周単辺 19・5×16・0センチ 半丁十二行 柱

刻「□□□ 三十五」

21 武道伝来記 刊 大本八冊

貞享四年版 四周単辺 19・9×15・0センチ 半丁十三行 柱

刻判読不能

22 西鶴織留 刊 大本六冊

元禄七年版 四周単辺 20・0×15・8センチ 半丁十二行 柱

刻「世の人心六 十四」

23 小夜嵐物語 刊 半紙本十冊

元禄十一年版 四周単辺 18・8×13・5センチ 半丁十一行

柱刻「小夜嵐巻第□ 九」

24 御前御伽婢子 刊 大本六冊

元禄十四年版 四周単辺 20・8×15・2センチ 半丁十行 柱

刻「御前五 八」 別に同巻第24丁(挿絵)を貼付

25 風流日本荘子 刊 大本五冊

元禄十五年版 四周単辺 20・7×15・2センチ 半丁十行 柱

刻「日本荘子巻 四 七」 青山為兵衛刊
26 風流神代巻 刊 大本六冊

元禄十五年版 四周単辺 18・4×13・9センチ 半丁八行 柱

刻「風流□ 五」 野村長兵衛開板

27 飛鳥川当流男 刊 大本六冊

元禄十五年版 四周単辺 19・6×15・4センチ 半丁十二行

(但し当該丁は十一行) 柱刻「当流男巻□ □□」 別に第

25丁(挿絵)を貼付

28 元禄曾我物語 刊 大本六冊

元禄十五年版 四周単辺 20・6×15・1センチ 半丁十行 柱

刻「□□□敵討巻 四 十一」 角書「東海道敵討」

29 遊興新平家物語 刊 大本八冊

元禄十六年版 四周単辺 19・0×14・1センチ 半丁十行 柱

刻「粕都平家物語巻五 七」

30 金玉ねぢぶくさ 刊 大本八冊

宝永元年版 四周単辺 17・6×13・2センチ 半丁十行 柱刻

「金玉ねぢぶくさ巻之一 八」

31 傾城播磨石 刊 横本六冊

宝永四年版 四周単辺 10・6×15・9センチ 半丁十五行 柱

刻「はりま石 □」 別に丁付不明の半丁(挿絵)を貼付

32 千尋日本織 刊 半紙本六冊

宝永四年版 四周単辺 18・1×13・3センチ 半丁十一行 柱

刻「日本織」□ 十四」

33 当世誰が身の上 刊 大本六冊

宝永七年版 四周単辺 20・8×15・2センチ 半丁十二行 柱

刻判読不能

34 武蔵播磨石 刊 半紙本六冊

正徳元年版 四周単辺 20・3×15・1センチ 半丁十二行 柱

刻判読不能

35 一夜船 刊 大本五冊

正徳二年版 四周単辺 19・3×14・6センチ 半丁十一行 柱

刻判読不能 別に丁付不明の半丁(挿絵、柱刻「一夜舟巻五」)

を貼付

36 今川一睡記 刊 大本五冊

正徳三年版 四周単辺 20・3×16・5センチ 半丁十一行 柱

だし当該丁は巻末のため行数未詳 柱刻「□睡四之巻 □□」

37 風流誑平家 刊 横本五冊

正徳五年版 四周単辺 11・4×17・9センチ 半丁十四行 柱

刻「□□五巻 九」

38 世間娘気質 刊 大本六冊

享保二年版 四周単辺 20・7×16・1センチ 半丁十一行 柱

刻「世娘 一之巻 廿六」 別と同巻第15丁(挿絵)を貼付

39 昔男時世粧 刊 大本五冊

享保十六年版 四周単辺 19・0×14・1センチ 半丁十一行

柱刻「昔男時世版 巻之二 五」 板元大坂瀬戸物屋伝兵衛

売出小川彦九郎

40 咲分五人娘 刊 大本五冊

享保二十年版 四周単辺 20・6×15・7センチ 半丁十二行

柱刻「咲分□□ □□」

板元京菱屋治兵衛 売出小河彦九郎

41 愛護初冠女筆始 刊 大本五冊

享保二十年版 四周単辺 20・4×16・2センチ 半丁十二行

柱刻「五之巻愛子 廿一」 別と同巻第22丁(挿絵)を貼付

板元京八文字屋八左衛門 売出万屋清兵衛

42 渡世伝授車 刊 大本五冊

元文二年版 四周単辺 20・2×15・4センチ 半丁十二行 柱

刻「□□伝授車 巻之二 五」

43 世間長者容気 刊 大本五冊

宝暦四年版 四周単辺 19・3×15・2センチ 半丁十二行 柱

刻判読不能 板元京八文字屋八左兵衛 売出鱗形屋孫二郎

44 地獄楽日記 刊 半紙本五冊

宝暦五年版 四周単辺 17・7×13・2センチ 半丁十行 柱刻

「楽日記 巻五 □」 板元売出太田庄右衛門

45 日本契情始 刊 大本五冊

明和四年版 四周単辺 20・6×16・3センチ 半丁十二行 柱

刻判読不能 享保六年版の求版

46 怪談御伽桜 刊 大本五冊

元文頃版 四周单边 19・8×15・3センチ 半丁十二行 柱刻

「御伽桜 卷之五 十一」 別に同卷丁付不明の半丁（挿絵）を貼付

47 渡世商軍談 刊 大本五冊

刊年不明 四周单边 19・9×16・2センチ 半丁十二行 柱刻

「商 五之卷 二」 正徳三年頃版か

48 風流虫合戦 刊 半紙本五冊

刊年不明 四周单边 19・7×14・9センチ 半丁十二行 柱刻

「虫合戦 卷之三 □」 宝暦十二年版 板元京都林伊兵衛

売出前川六左衛門

49 農民太平記 刊 大本五冊

刊年不明 四周单边 21・5×16・0センチ 半丁十一行 柱刻

判読不能 解説に「柱ニ鎌倉トアリ」とある 『浮世草子考証年

表』では宝永末から正徳頃刊と推定

50 当世御伽曾我 刊 大本五冊

刊年不明 四周单边 20・2×15・9センチ 半丁十二行 柱刻

「二之卷御伽曾我 廿五」 正徳三年八文字屋八左衛門版か

新編反故草子

(略号——「新」)

3 一休はなし 刊 大本

刊年不明 四周単辺 21・6×16・1センチ 半丁十四行 柱刻

「一休咄 巻一 六」 別に同巻第13丁(挿絵)を貼付 解説

に寛文八年刊とするが、それは十一行本の初版の刊年 これは石

川俊一郎氏『「一休はなし」版本攷』(『国語と国文学』昭60・11)

に言うL3本

4 海上物語 刊 大本

寛文六年版 無辺 字高20・0センチ 半丁九行 柱刻判読不能

仮名草子

5 宗祇諸国物語 刊 大本

貞享二年版 四周単辺 18・7×14・1センチ 半丁十一行 柱

刻「宗祇三 十二」

6 東海道名所記 刊 大本

万治頃版 四周双辺 20・6×15・8センチ 半丁十二行 柱刻

「道行一 二」 解説に万治元年刊とするが、その根拠不明

7 堪忍記 刊 大本

寛文四年版 四周単辺 22・0×17・5センチ 半丁十三行 柱

刻「堪忍記巻二 二十九終」 刊記「寛文四曆^{甲辰}五月吉日／

洛陽書林／前川茂右衛門開板」 解説に明暦元年刊とするのは誤

り

8 ^{東海道}元禄曾我物語 刊 大本

元禄十五年版 四周単辺 20・9×15・0センチ 半丁十行 柱

四巻四冊 堀田葦男編 昭和十九年一月〜同十一月

巻一「江戸文芸篇ノ一」(昭19・1)、巻二「江戸文芸篇其二」(昭19・

8)、巻六「医薬本草曆数辞書諸芸雜書」(昭19・11)、巻七「史伝地誌

仏書教訓篇」(昭19・5)とし、合計一〇六種一一九葉を収める。巻一、

巻二所収の零葉のうち、とくに近世初頭の文芸ものに、『反故草子』前、

後集との重複が見られる。台紙に、和刻本『通鑑綱目』の反古一丁を開

いて使用し、巻一のみ柿渋、藍を使って染色。零葉を奇数ページに貼っ

て、ノド側に解説(書誌条項)を朱で手書する。

巻三―五を欠くが、これらが実際に作られたかどうかは不明。編纂年月

の乱れを勘案するとき、これで終わったもの、とも考えられる。なお、

編者の堀田葦男氏については、前号の「あとがき」を参照せられたい。

■新編反故草子巻一

1 可笑記 刊 大本

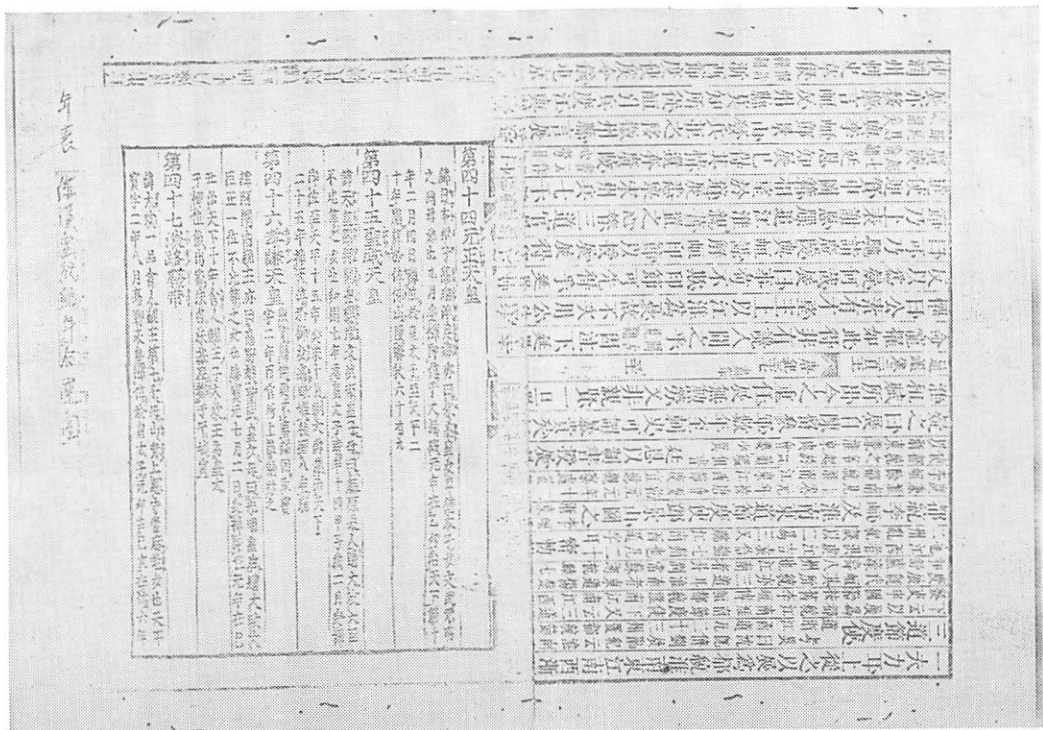
寛永十九年版 四周単辺 21・6×15・6センチ 半丁十一行

柱刻判読不能 ただし巻五の第32丁と思われる

2 出来齋京土産 刊 大本

延宝六年版 四周単辺 20・6×16・4センチ 半丁十三行 柱

刻「巻之六 廿八」



刻「東海道敵討卷 六十一」 別に同卷第8丁(挿絵)を貼付

9 和国玉かつら 刊 大本

宝永六年版 四周単辺 19・9×14・5センチ 半丁十一行 柱

刻判読不能 『繪本朝美人鑑』(貞享四年刊)の改題本

10 他我身の上 刊 大本

明暦三年版 四周単辺 21・4×15・7センチ ただし横の寸法

は折目まで 半丁十一行 柱刻「身一 六」

11 一夜船 刊 大本

正徳二年版 四周単辺 19・2×14・2センチ 半丁十二行 柱

刻判読不能

12 天神記 刊 半紙本

刊年不明 無辺 字高19・0センチ 半丁十行 柱刻「天神

□

13 傾城反魂香 刊 半紙本

刊年不明 無辺 字高19・6センチ 半丁七行

14 茶の子餅 刊 小本

安永三年版か 無辺 字高12・5センチ 半丁七行 咄本

15 一宵話 刊 半紙本

文化七年版 四周単辺 18・7×13・4センチ 半丁十行 細字

双行 柱刻「一宵話 卷之三 廿七」

16 燕石襍志 刊 大本

文化八年版 無辺 字高20・2センチ 半丁十二行 丁付はウラ

のノド下部に燕四卷十五とある

17 用捨箱 刊 大本

刊年不明 無辺 字高18・9センチ 半丁十一行

18 道心墨染桜 刊 半紙本

刊年不明 無辺 字高19・0センチ 半丁七行 中巻初丁のオモ

テ半丁を貼付

19 当世染戯場雛形 刊 中本

文政六年版か 四周単辺 15・9×10・3センチ 半丁行数不定

柱刻判読不能 合巻

20 傾城反魂香 刊 半紙本

刊年不明 無辺 字高19・5センチ 半丁八行 丁付はウラのノ

下に「反五十道一」とある 解説に書名を『三熊野かげらうす

がた』とするが、それは道行の名称 岩波版『近松全集』第五巻

に同じく八行本を収めるが、別版

21 拍子舞紅梅籠 刊 中本

文政十年版か 四周単辺 15・8×10・3センチ 半丁行数不定

柱刻「えびら 廿三」 合巻

22 伊達娘恋緋鹿子 刊 半紙本

刊年不明 無辺 字高18・2センチ 半丁六行

23 風俗金魚伝 刊 中本

天保八年版 四周単辺 15・5×10・2センチ 半丁行数不定

柱刻「金魚伝二編」 □ 別に前見返の半丁を貼付「風俗金魚

伝／第二編／馬琴作国安画／丁酉孟春発行／上之巻／版元／錦森

堂／松寿堂」などある 解説に安政四年刊とするが、それは三次

版 これは松寿堂大黒屋平吉の二次版であろう 初版は文政十二

年刊 合巻

24 発句題叢 刊 中本

天保頃版 四周単辺 14・5×9・8センチ 半丁十一行 柱刻

「十四」

■新編反故草子巻二

1 古老軍物語 刊 大本

刊年不明 四周単辺 21・2×16・4センチ 半丁十一行 柱刻

判読不能

2 本朝桜陰比事 刊 大本

元禄二年版 四周単辺 19・8×15・3センチ 半丁十二行

刻「桜陰巻四 十」 上刷、初版初印本か

3 地獄楽日記 刊 半紙本

宝暦五年版 四周単辺 17・7×13・1センチ 半丁十行 柱刻

「楽日記 巻五」 □□

4 島原合戦記 刊 大本

宝永元年版 四周単辺 20・5×15・7センチ ただし横の寸法

は折目まで 半丁十行 柱刻「高下 十三」

5 飛鳥川当流男 刊 大本

元禄十五年版 四周单辺 19・5×15・2センチ 半丁十二行

柱刻「当流男巻一 八」

6 当世誰が身の上 刊 大本

宝永七年版 四周单辺 20・6×15・2センチ 半丁十二行 柱

刻「当世誰身の上 巻ノ六 廿一」

7 「女しつけ方」 刊 大本

万治寛文頃版 四周单辺 22・6×16・7センチ 半丁十五行

柱刻「女 下一」 貼付の零葉は目録(目次)の半丁 別非同

巻第10丁(挿絵)を貼付

8 一夜舟 刊 大本

正徳二年版 四周单辺 19・2×14・3センチ 半丁十一行 柱

刻「一夜舟巻五 □□」

9 昔男時世粧 刊 大本

享保十六年版 四周单辺 18・9×13・9センチ 半丁十一行

柱刻「昔男時世粧 巻ノ二 二十四」

10 風流証平家 刊 横本

正徳五年版 四周单辺 11・3×17・8センチ 半丁十四行 柱

刻「風流五巻 □□」

11 咲分五人娘 刊 大本

享保二十年版 四周单辺 20・5×15・8センチ 半丁十二行

柱刻「咲分 四 十四」

12 世間娘氣質 刊 大本

享保二年版 四周单辺 20・6×16・1センチ 半丁十一行 柱

刻「世娘 二之巻 四」 別に巻一第1丁(序文、半丁十行)

を貼付

13 小夜嵐 刊 半紙本

元禄十一年版 四周单辺 18・8×13・7センチ 半丁十一行

柱刻「小夜嵐巻第一 三十三終」 書名正しくは『繪小夜嵐物語』

語』

14 露休しかた咄 刊 半紙本

刊年不明 四周单辺 17・6×13・7センチ 半丁十行 柱刻

「露休□□二 一」 山崎麓氏『日本小説書目年表』の「露休

ばなし」の頃に「宝永二年『軽口あられ酒』と改題、正徳二年旧

名に復し、其の後又『露休しかた咄』と改題」とあるが、『軽口

あられ酒』中にこの一葉と一致する箇所を見出さず、『露休ばな

し』は、伝存不明)、三者同内容とする説に疑問が持たれる

15 「善光寺」 刊 半紙本

刊年不明 無辺 字高19・8センチ 半丁十行 浄瑠璃

16 相模入道千疋犬 刊 半紙本

刊年不明 無辺 字高19・5センチ 半丁十一行

17 「あかねや」 刊 半紙本

刊年不明 無辺 字高18・5センチ 半丁十行 柱刻「あかねや

一」 貼付の丁に内題があり、「三かつ心中 上」とする

標題は仮に柱に依った 歌祭文か

18 初衣抄 刊 中本

天明七年版 四周单边 14・4×10・5センチ ただし上部4・

4センチを区切って頭書あり 半丁十一行 貼付の一葉は第22丁

オモテ 別名『百人一首和歌初衣抄』 洒落本

19 魂胆胡蝶枕 刊 中本

享和二年版 四周单边 14・5×10・4センチ 半丁八行 細字

双行 丁付はウラのノドに「廿」とある

20 船頭深話 刊 小本

文化三年版 四周单边 12・5×8・9センチ 半丁七行 丁付

はウラのノドに「二」とある

21 東海膝栗毛 刊 中本

刊年不明 四周单边 15・7×10・4センチ 半丁八行 細字双

行

22 瀬江の島土産 刊 中本

文化七年版 四周单边 15・5×10・5センチ 半丁八行、細字

双行 丁付はオモテのノドに「江のしま 三十」とある

23 串戯二日酔 刊 中本

文化八年版 四周单边か 貼付の一葉は巻頭繻像の半丁で飾り野、

その内法14・5×10・6センチ 半丁行数不明 柱刻「二日酔 式」

24 名古屋道中膝栗毛 刊 中本

文化十二年版 四周单边 15・2×10・2センチ 半丁八行 丁

付はウラのノド下部に耳を設けて「三十二」とある 貼付の一葉に尾題があり、「四編之綴足上之巻畢」とする 『名古屋見物四編之綴足』が本作の別名

25 大山栗毛後駿足 刊 中本

文化十四年版 四周单边 14・8×10・2センチ 半丁八行 細

字双行 柱刻「大山二 十一」 別に同巻「口ノ五」丁（挿

絵）を貼付

26 契情肝粒志 刊 中本

文政八年版 四周单边 13・8×9・8センチ 半丁八行 丁付

はウラのノドに「后中十九」とある

27 廓の意気地 刊 中本

文政十年版 四周单边 14・6×9・9センチ 半丁八行

28 御老倭志 刊 中本

天保三年版 四周单边 14・9×9・9センチ 半丁八行 洒落

本

29 春色梅曆 刊 中本

天保三年版 四周单边か 貼付の一葉は繻像の半丁（挿絵、色

刷）で内法13・4×9・3センチ

30 〔逸題曾我物〕 刊 中本

刊年不明 四周单边 15・3×10・2センチ 柱刻「曾我 二 十」 合巻

■新編反故草子巻六

1 格致余論 刊 大本

刊年不明 四周单边 20・7×13・3センチ 半丁九行 柱刻

□□□□ 卷一格致余 七 医書

2 医方大成論 刊 半紙本

刊年不明 四周单边 18・1×12・8センチ ただし横の寸法は

折目まで 半丁八行 柱刻「大成論 十二」

3 和名集 刊 横本

寛永頃版 四周单边 11・8×17・3センチ 半丁十三行 柱刻

「和名下 七」 薬方

4 類聚方 刊 小本

明和元年版 四周单边 13・1×7・7センチ 半丁八行 柱刻

「類聚方 六 □蘆亭蔵」 薬方

5 宜禁本草 刊 横本

寛永頃版 四周单边 11・8×17・8センチ 半丁十二行 漢字

平仮名交り 柱刻判読不能

6 本朝食鑑 刊 半紙本

元禄十年版 四周双边 19・1×13・8センチ 半丁十二行 柱

刻「本朝食鑑卷四 果部 三」

7 草木性譜 刊 大本

刊年不明 四周双边 20・5×15・8センチ 半丁九行 細字双

行 柱刻「草木性譜 人 十三」 別に同巻第11丁(挿絵)を

貼付

8 草木錦葉集 刊 大本

文政十二年版 四周单边 21・7×14・4センチ 半丁十五行

柱刻「草木錦葉集 □巻 廿八」

9 華陽皮相原稿 刊 大本

刊年不明 四周单边 20・7×14・2センチ 半丁十行 有界

馬医書

10 曆 刊

文政二年版 断片のため匡郭の縦寸法19・3センチ以外不明

11 塵劫記 刊 大本

寛永頃版 四周单边 20・8×15・5センチ 見出語が匡郭をは

み出す 半丁十四行 挿絵がカット風に文中に入る 柱刻「塵劫

キ下 十四」

12 算法初心鈔 刊 半紙本

延宝頃版 四周单边 19・3×14・6センチ ただし横の寸法は

折目まで 半丁行数不定 挿絵がカット風に文中に入る 柱刻

「算一 十六」

13 倭玉篇 刊 大本

慶長頃版 四周双边 20・5×17・5センチ 半丁七行 有界

各行四段 片かな 柱刻「和玉篇卷六 廿六」 慶長十五年洛

陽二条通二王門町開板本系統のうちの一本

14 草増補大節用集 刊 大本

寛文五年版 四周单边 21・6×17・1センチ 半丁七行 有界

柱刻「大節用 一」 貼付の一葉は初丁オモテで、「真草二行節用集」の内題あり 解説に書名を「大節用集」とするが、柱刻に従ったものか 武村三良兵衛の刊本で、標題のごとく題簽にある

15 増補訓蒙図彙大成 刊 半紙本

寛政元年版 四周单边 18・3×13・7センチ ただし上部5・2センチで区切って頭書あり 半丁十四行（頭書） 柱刻「頭書増補訓蒙図彙卷廿一 十二」 解説に「訓蒙図彙」とするが正確でない

16 香道秋の光 刊 中本

刊年不明 四周单边 14・3×10・9センチ 半丁行数不定 柱刻「香道秋の光上 十二」

17 碁立綱飾 刊 大本

刊年不明 四周单边 19・8×16・0センチ 半丁行数不足 柱刻「碁立綱飾 卷之六 九」

18 料理物語 刊 中本

慶安頃版 四周单边 17・5×13・0センチ ただし横の寸法は折目まで 半丁十二行 柱刻「料理 三十」

19 料理山海郷 刊 中本

刊年不明 四周单边 14・7×10・0センチ 半丁九行 柱刻「山海郷二 十四」

20 料理分類いろは庖丁 刊 中本

刊年不明 四周单边 14・1×9・9センチ 半丁行数不定 柱刻「伊呂波 三」

21 奇術天狗通 刊 半紙本

刊年不明 四周单边 18・4×13・8センチ 半丁を田字型に四分して図と説明を示す 柱刻「天ノ下 九」 手品の書

22 茶家酔古集 刊 横本

刊年不明 左右双边 6・7×14・8センチ 半丁行数は細字を交えて不定 柱刻「四」

23 広益書籍目録 刊 横本

刊年不明 四周单边 8・9×13・8センチ 半丁十二行 有界 柱刻「書籍大目録四 一」

24 神風記 刊 大本

刊年不明 无边 字高20・7センチ 半丁十行 柱刻「神五ノ一」

25 英語箋 刊 中本

万延頃版 四周单边 14・8×9・4センチ 半丁八行二段 有界 柱刻「英語箋人倫 十」

26 海外新聞 刊 半紙本

明治三年版 四周单边 15・4×10・4センチ 半丁九行 細字 双行 柱刻「海外新聞 九 大学南校」

27 英字訓蒙図会 刊 半紙本

明治四年版 四周单边 17・7×12・5センチ 半丁行数不定

柱刻「英訓蒙図会 十」

28 扶桑孝子伝 刊 大本

刊年不明 四周单边 19・7×14・4センチ 半丁九行 柱刻

「扶桑孝子伝 卷上 二」 別に同巻第45丁(挿絵)を貼付

29 新編鎌倉志 刊 大本

刊年不明 四周双边 20・3×15・1センチ 半丁十行 柱刻

「新編鎌倉志 卷之一 一」 別に丁数不明の半丁(地図)を

貼付

30 鹿島志 刊 大本

刊年不明 四周单边 19・1×14・7センチ 半丁十二行 柱刻

「鹿嶋志上 六」

■新編反故草子巻七

1 日本書紀 刊 大本

寛永頃版 四周单边 22・6×15・4センチ 半丁八行 柱刻

「日本紀一 十八」

2 倭漢皇統編年合運図 刊 大本

寛永七年版 四周单边 23・6×16・8センチ 半丁十一行 細

字双行 有界 柱刻「帝系図 七」 解説に刊年を書きないが、

版式よりして寛永七年洛陽本能寺前庄右衛門開板本と思われる

3 貞永式目 刊 大本

刊年不明 無辺 字高20・0センチ 半丁十一行 柱刻「式目上

九」

4 太平武鑑 刊 横本

元禄九年版 四周单边 9・4×14・6センチ 半丁行数不定

有界 柱刻「七 □」

5 古史伝 刊 大本

刊年不明 四周单边 20・2×14・7センチ 半丁二十行 柱刻

「古史伝十四 五十」

6 長崎夜話草 刊 半紙本

刊年不明 四周单边 18・6×13・4センチ 半丁十行 柱刻

「□□□□□□ 八」

7 都名所図会 刊 大本

天明六年版 四周单边 21・1×16・1センチ 半丁十三行 丁

付はウラのノド下部に六三十五とある 別に同巻第43丁(挿

絵)を貼付

8 近江国名所図会 刊 大本

刊年不明 四周单边 20・6×15・5センチ 半丁十七行 丁付

はウラのノド下部に附六十四ノ七十四とある

9 河内国名所図会 刊 大本

享和元年版 四周单边 20・3×15・5センチ 半丁十三行 細

字双行 丁付はウラのノド下部に耳を設けて「河二ノ十二」とす

る 別に丁付不明の半丁(挿絵)を貼付

10 華夷通商考 刊 半紙本

刊年不明 四周単辺 16・2×11・3センチ 半丁七行 柱刻

「巻二 五」

11 名区小景 刊 半紙本

刊年不明 四周単辺 16・9×11・7センチ 半丁十二行 丁付

はウラのノド下部に「上ノ六」とある 別に丁付不明の半丁（挿絵、

多色刷）を貼付 名古屋の地誌

12 御江戸図説集覽 刊 大本

刊年不明 四周単辺 21・7×15・0センチ 挿絵の丁で半丁行

数等不明 多色刷

13 成仏經 刊

寛永十九年高野版 無辺 字高19・5センチ 断片であって、半

丁行数等不明 両面刷

14 孝子鑑 刊 大本

刊年不明 四周単辺 20・3×14・7センチ 半丁十一行 柱刻

「孝子巻三 一」

15 宝物集 刊 大本

刊年不明 四周単辺 22・5×17・5センチ 半丁十五行 柱刻

「宝物上 十一」別に同巻第19丁（挿絵）を貼付

16 女人愛執録 刊 大本

元文五年版 四周単辺 18・6×14・0センチ 半丁十行 柱刻

「愛執録下 5」

17 五事毘婆沙論 刊 大本

刊年不明 四周単辺 21・3×14・4センチ 別に眉上に校異を

記す 半丁十行 柱刻「論 五事毘婆沙論巻七 六」

18 永代重宝記 刊 半紙本

刊年不明 四周単辺 18・7×13・5センチ 半丁十行 柱刻

「永代記二 十三」

19 万宝庭訓往来 刊 大本

正徳五年版 四周単辺 21・9×16・5センチ 上部5・4セン

チを区切って頭書あり 半丁七行 柱刻「庭訓 十三」

20 永楽古状揃 刊 大本

天明三年版 四周単辺 21・4×15・3センチ 上部4・7セン

チを区切って頭書あり 半丁六行 柱刻「古状 廿一」

21 女訓百人一首宝箱 刊 半紙本

文政十一年版 四周単辺 17・1×12・1センチ 上部6・2セ

ンチを区切って歌仙絵（半丁二図）を載せる 下部は百人一首で

半丁一図 柱刻「八」

落葉籠

(略号——「落」)

一冊 発行年、編者等不明

いままでその名の知られなかった落葉集である。表紙中央に題簽を貼って「落葉籠活字版」とする以外、素性を明らかにしない。奇数ページに落葉を貼り、その裏面に、書名、刊年等を、筆太の文字で墨書する。全三十七葉、外題に謳うごとく、すべて活字版であって、木活字版および朝鮮古活字版を交える。特色として表紙裏から出た落葉の多いことを言うべきであろう。十四葉がそれ(ただし二葉は同版)、いずれも表紙の折り目を開いた形なりに貼られている。それゆえ、書名を確定し得ないもの数点を残す結果に終わった。

表紙裏反古のうち特に注目すべきは、「20」の落葉であろう。紙が、何と、紺色なのである。これは表紙の色であって、刷り余りの一葉が、表紙の表皮として使われたことを意味している。どうやら、表紙おもて面の、栗皮とか丹、紺色などに彩られた表皮は、手近にありあわせの紙を染めて作ったものようである。

本落葉集は、台紙の質、綴糸その他よりして、戦前の作か。考証の確かさ、落葉の数と種類の豊かさ等からして、その道に達した人の手になると思われる。反古から復元できる表紙の寸法はさまざま。表紙裏に古活字版の反古をひそませる例は稀なのであるから、かなりの数の古活字版を自由にすることが出来た人であったはず。あるいは古書肆か。しかし、頒布を目的にしたものでは、なかったであろう。表紙裏反古は、通例同

種複数の出現が期待できないから、である。

底本——国文学研究資料館(ラ三一—二)

1 和泉が城 刊 大本

古活字版 寛永頃刊 無辺 字高22・0センチ 断片ゆえ半丁行

数等不明 一行十七字前後 舞の本 表紙裏反古

2 「逸題漢籍」 刊 大本

古活字版 寛永頃刊 四周双辺 22・2×15・8センチ 半丁十

二行二十二字 柱刻判読不能 表紙裏反古

3 観経四帖疏楷定記 刊 大本十五冊

古活字版 寛永十七年刊 四周双辺 22・8×16・0センチ 半

丁九行十九字 注双行 柱刻「定善楷定記八 二」 刊記「寛

永十七^{庚辰}年八月吉日／洛陽三条於宝蔵寺令印判之者也／比丘来

誉林香」

4 聯珠詩格 刊 大形本

朝鮮古活字版 天地双辺 24・1×17・1センチ 半丁十二行二

十一字 注文双行 有界 柱刻「聯珠詩卷十二 七」

5 伊勢物語 刊 大本

古活字版 嵯峨本 無辺 字高21・8センチ 半丁九行十七八字

平がな交じり 柱刻なし 貼付の落葉は下巻第46丁ウラの半丁

色変り料紙

6 平治物語 刊 大本

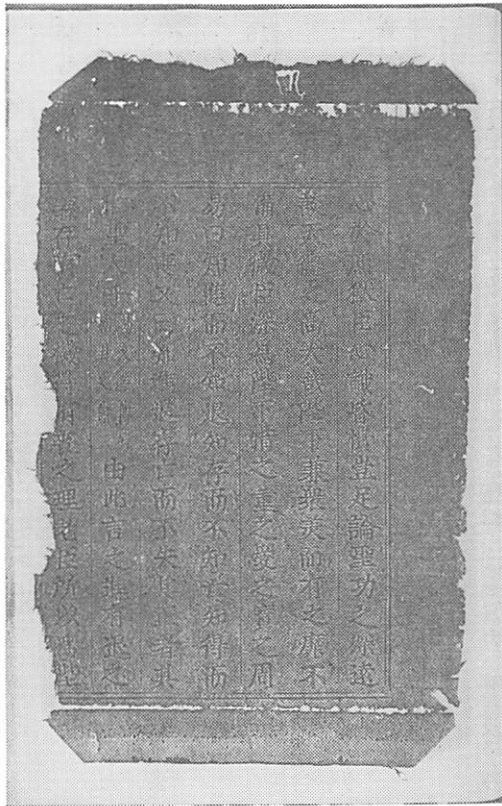
古活字版 元和寛永頃刊 無辺 字高21・5センチ 半丁十二行
二十二字 平がな交じり 付訓活字を用いる 丁付がウラのノド
に「平下冊三」とある

7 沙石集 刊 大本

古活字要法寺版 慶長頃刊 無辺 字高21・7センチ 半丁十行
二十一から二十五字前後 片かな交じり 片かなは大小二種の活
字混用 柱刻「沙石集一上 十六」

8 沙石集 刊 大本

古活字版 元和二年刊か 四周双边 22・5×17・3センチ 半
丁十二行二十六字前後 片かな交じり 柱刻「沙石集五下
七」



9 孟子抄 刊 大本

古活字版 元和寛永頃刊 四周双边 22・4×16・5センチ 半
丁九行十八字 注文は双行、一字下げ各行二十一字から二十七字
片かな交じり 柱刻「孟子抄三 二」 いわゆる洛陽本能寺
前開版本か

10 日本書紀 刊 大本

古活字版 慶長元和頃刊 四周双边 20・3×14・1センチ 半
丁八行十六字 柱刻「日本紀 七十五」 各行行頭に一字分の
余白あり

11 類字名所和歌集 刊 大本

古活字版 元和頃刊 無辺 字高24・3センチ 半丁十一行二十
七字前後 細字双行 平がな交じり 丁付がウラのノドに「六
六十一」とある 解説に元和三年版とするが、それは跋文の年記

12 山谷詩集注 刊 大本

古活字版 元和寛永頃刊 四周双边 22・3×17・0センチ 半
丁九行十八字 柱刻「山谷卷七 三」

13 山谷詩集 刊 大本

古活字版 元和寛永頃刊 四周双边 21・6×16・8センチ 半
丁十行十九字 柱刻「山谷十七 四」

14 史記 刊 大本

古活字版 慶長元和頃刊 四周双边 21・6×16・7センチ 半
丁八行十七字 注文双行 柱刻「史記伝二 五」 解説に書名

を「史記伝」とするのは柱刻の誤解 「伝」は列伝の意

15 孔子家語 刊 大本

古活字版 元和頃刊 四周双边 21・2×16・0センチ 半丁九

行十八字 注文双行 有界 柱刻「家語卷四 十三」 表紙裏

反古

16 大般涅槃經 刊 折本

古活字天海版 寛永頃刊 天地21・1センチ 一行十七字 継合

せに「迹 大般涅槃經卷一 十一」とある 天海版一切経のう

ち

17 弁慶物語 刊 大本

古活字版 慶長元和頃刊 無辺 字高22・7センチ 下巻終丁の

半丁ゆえ、行数等不明 尾題が「弁慶物語下終」とある

18 重修改和証類本草 刊 大本

古活字版 元和頃刊 四周双边 24・7×16・6センチ 半丁十

行十九字 注文双行 有界 柱刻「本草十三 十三」 表紙裏

反古

19 太平記 刊 大本

古活字版 慶長八年富春堂刊 四周单边 21・8×16・7センチ

半丁十二行十九字から二十二字 片かな交じり 柱刻「太平記

卷廿四 卅四」 刊記「慶長癸卯季春既望 富春堂 新刊」

20 貞観政要 刊 大本

古活字伏見版 慶長五年刊 四周双边 22・2×15・2センチ

半丁七行十七字 注文双行 有界 柱刻判読不能であるが、第九
冊21オに同定できる 表紙裏反古 ただし紺色に染める すなわ
ち、反古を染めて裏側を表皮に用いたものか

21 「逸題伝書」 刊 大本

古活字版 寛永頃刊 無辺 字高22・2センチ 半丁十行十八字

柱刻「要義□□ 四十六」 表紙裏反古

22 止観輔行伝弘決 刊 大本

古活字版 元和寛永頃刊 無辺 字高20・5センチ 半丁七行十

七字 柱刻「輔行九本 五十八」

23 孟子 刊 大本

木活字版 刊年不明 四周单边 20・2×13・7センチ 半丁九

行 柱文双行 柱刻「孟子 卷二公孫丑 十九」

24 真宗仮名聖教関典録 刊 大本

木活字版 刊年不明 四周单边 21・0×15・5センチ 半丁十

一行 注文双行 片かな交じり 柱刻「関典録卷九末 卅卅

一」

25 重修改和証類本草 刊 大本

古活字版 元和頃刊 四周双边 24・7×16・6センチ 半丁十

行十九字 注文双行 有界 柱刻「本草十二 五」 本零葉集

〔18〕に同版 表紙裏反古

26 十九史略通考 刊 半紙本

木活字版 明治四年刊 左右双边 17・2×12・8センチ 半丁

十行 有界 刊記「明治四年辛未十一月出版」 別に袋を貼付
「明治辛未聚珍版／十九史略通考／官許 金沢学校印」と記す
印文は「金沢学校蔵版」

27 平家物語 刊 大本

古活字版 元和寛永頃版 無辺 字高22・7センチ 半丁十一行
二十六字前後 丁付がウラのノドに「八 四」とある

28 授蒙聖功方 刊 横本二冊

古活字版 元和寛永頃版 無辺 字高10・7センチ 半丁十四行
十一、二字 漢字の活字に大小二種を用いる 柱刻「上六五」

29 漢書 刊 大本

古活字版 寛永五年刊 四周双辺 21・5×16・3センチ 半丁
十行十七字 注文双行 柱刻「前漢伝四 六」 刊記「寛永第
五^{戊辰}曆菊月廿一日／於洛陽本能寺前刊行焉」 表紙裏反古

30 十八史略 刊 大形本

古活字版 慶長元和頃刊 四周双辺 22・5×16・6センチ 半
丁九行十八字 注文双行 有界 別に眉上2・5センチに横線を
設け、その間に一行二字の頭書を小型活字で組む

31 平家物語 刊 大本

古活字版 寛永頃刊 四周双辺 22・8×16・3センチ 半丁十
二行二十六字前後 片かな交じり 柱刻「平家巻七 廿八」

32 局方発揮 刊 大本

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 19・1×15・5センチ 半丁九

行十六字 柱刻「局方発揮 六」 表紙裏反古
33 毛詩鈔 刊 大本

古活字版 寛永頃刊 四周双辺 22・2×17・2センチ 半丁十
六行二十三字前後 片かな交じり 柱刻「毛詩鈔九 五」 表
紙裏反古

34 中庸抄 刊 大本

古活字版 寛永二年刊 四周单辺 22・7×16・9センチ 半丁
十二行二十四字前後 片かな交じり 柱刻「中抄下 十四」
表紙裏反古

35 貞永式目抄 刊 大本

古活字版 慶長元和頃刊 四周单辺 21・8×センチ 断
片ゆえ半丁行数等不明 一行二十五字前後 片かな交じり 表紙
裏反古

36 源平盛衰記 刊 大本

古活字版 元和寛永頃刊 四周单辺 22・9×16・6センチ 半
丁十二行二十三字前後 片かな交じり 柱刻「盛衰記巻廿九
□」 表紙裏反古 空押の沙綾形模様が浮き出ている

37 逸題本草書 刊

古活字版 寛永頃刊 断片にて版型その他詳細不明 本零葉集
〔18〕〔25〕とは別種 表紙裏反古 空押の沙綾形模様が浮き出
ている

書名綜合索引

今川一睡記(正徳三年版) 反後36

因果物語(寛文七年版) 反後8

浮世物語(寛文十年版)

海意菩薩所問淨印法門經↓「シヨ」

浮世物語(寛文十年版)

海外新聞(明治三年版) 新六26

謡本(延宝五年京山本源太郎版)

海上物語(寛文六年版) 反後7・新一4

愛護初冠女筆始(享保二十年版)

反後41

英語箋(万延頃版)

怪談御伽桜(元文頃版)

反後46

〔あかねや〕(刊年不明)

新二17

英字訓蒙図会(明治四年版)

華夷通商考(刊年不明)

新七10

雜語秋の寢覚(天保十二年版)

反前49

永代重宝記(刊年不明)

格致余論(刊年不明)

新六1

浅井物語(寛文二年版)

反後5

永楽古状揃(天明三年版)

花実義経記(享保五年版)

反前23

あさがほのつゆのみや(寛文頃版)

反後11

瀬江の島土産(文化七年版)

梶の葉(宝永四年版)

反前16

飛鳥川当流男(元禄十五年版)

反後27・新二5

繪本江戸紫(明和二年版)

鹿島志(刊年不明)

新六30

和泉が城(古活字寛永頃版)

落1

燕石操志(文化八年版)

新116

可笑記(寛永十九年版)

反後1・新一1

伊勢物語

落5

王状元集註諸家分類東坡先生詩

新編鎌倉志(刊年不明)

新六29

(古活字嵯峨本)

落5

↓「トウ」東坡先生詩

神風記(刊年不明)

新六24

(寛永頃版)

反前1

近江国名所図会(刊年不明)

華陽皮相原稿(刊年不明)

新六9

一休可笑記(刊年不明)

反前12

御江戸図説集覽(刊年不明)

新七8

輕口東方朔(宝曆十二年版)

反前32

一休はなし

反前7

大山栗毛後駮足↓「クリ」

新七12

河内国名所図会(享和元年版)

新七9

(寛文八年版)

新13

鴨老樓志(天保三年版)

新二28

観経四帖疏楷定記(古活字寛永十七年版)

落3

(刊年不明)

新15

〔女しつけ方〕(万治寛文頃版)

反前5

一宵話(文化七年版)

新六2

女諸礼集(万治三年版)

反前5

医方大成論(刊年不明)

新六2

堪忍記(寛文四年版)

反前6・新一7

か行

紀伊国名所図会 (天保九年版)	反前 50	東海道元禄曾我物語 (元禄十五年版)	反後 28・新 1	西鶴織留 (元禄七年版)	反後 22
宜禁本草 (寛永頃版)	新 6 5	反後 28・新 1	逆沢瀉鑑 (寛保元年版)	反前 28	
義経記 (寛文十年版)	反前 8	広益書籍目録↓「シヨ」書籍目録	相模入道千疋犬 (刊年不明)	新 16	
奇術天狗通 (刊年不明)	新 6 21	孝子鑑 (刊年不明)	咲分五人娘 (享保二十年版)	反後 40・新 11	
貴船の本地 (刊年不明)	反後 17	孔子家語	冊府元龜 (明版)	別 8	
京雀 (寛文五年版)	反後 6	(古活字元和頃版)	廓の意気地 (文政十年版)	新 27	
京伝工夫小紋裁 (天明四年版)	反前 37	(朝鮮版)	小夜嵐物語 (元禄十二年版)	反後 23・新 13	
京童 (明暦四年版)	反前 3	好色一代女 (貞享三年版)	山谷詩集 (古活字元和寛永頃版)	落 13	
局方発揮 (古活字慶長頃版)	落 32	香道秋の光 (刊年不明)	山谷詩集注 (古活字元和寛永頃版)	落 12	
金玉ねぢぶくさ (宝永元年版)	反後 30	袖穿用草紙 (寛政四年版)	三國物語 (刊年不明)	反後 18	
柳留訓蒙図彙大成 (寛政元年版)	新 6 15	古今役者大全 (寛延三年版)	三世相 (明暦頃版)	別 29	
碁番口切のせりふ (文化八年版)	反前 44	古史伝 (刊年不明)	三体詩法 (古活字寛永三年木室二兵衛版か)	別 23	
楠三代壯子 (享保五年版)	反前 22	五事毘婆沙論 (刊年不明)	算法初心鈔 (延宝頃版)	新 6 12	
大山栗毛後駿足 (文化十四年版)	新 2 25	御前御伽婢子 (元禄十四年版)	三無性論 (寛文天和頃鉄眼版)	別 33	
傾城買二筋道 (寛政十年版)	反前 41	碁立絹飾 (刊年不明)	止観輔行伝弘決 (古活字元和寛永頃版)	落 22	
傾城禁短気 (正徳元年版)	反前 20	江の島土産↓「エ」	史記		
傾城播磨石 (宝永四年版)	反後 31	骨董集 (文化十二年版)	(古活字慶長頃版)	別 20	
傾城反魂香 (刊年不明)	新 13・20	曆 (文政二年版)	(古活字慶長元和頃版)	落 14	
源平盛衰記		古老軍物語 (刊年不明)	地獄菜日記 (宝暦五年版)	反後 44・新 3	
(古活字元和寛永頃版)	落 36	魂胆胡蝶枕 (享和二年版)	子孫鑑 (寛文十二年版)	反後 10	
(古活字寛永頃、乱れ版)	別 26		四分律 (宋版)	別 1	

四分律行事抄(南宋版)

別 4

成仏経(寛永十九年高野版)

新七 13

世間手代気質(享保十五年版)

反前 25

島原合戦記(宝永元年版)

新二 4

逍遙集(元文頃版)

反前 27

世間娘気質(享保二年版)

反後 38・新二 12

事文類聚翰墨全書(元版)

別 5

女訓抄(万治元年版)

反前 4

節用集

しやかの御本地(寛永二十年版)

反後 2

女訓百人一首宝箱(文政十一年版)

新七 21

増補大節用集(寛文五年版)

新六 14

釈摩訶衍論記(正応元年高野版)

別 13

諸士興廢記(刊年不明)

反前 21

〔善光寺〕(刊年不明)

新二 15

沙石集

(古活字要法寺版)

落 7

広益書籍目録(刊年不明)

新六 23

船頭深話(文化三年版)

反前 43・新二 20

(古活字元和二年版か)

落 8

新御伽婢子(天和三年版)

反後 19

雑阿含経(宋版)

別 2

十九史略通考(明治四年木活字版)

落 26

塵劫記(寛永頃版)

新六 11

宗祇諸国物語(貞享二年版)

反後 15・新二 5

十八史略(古活字慶長元和頃版)

落 30

真宗仮名聖教関典録(刊年不明木活字版)

落 24

草木錦葉集(文政十二年版)

新六 8

周礼註疏(明版)

別 6

増補大節用集↓「セツ」節用集

反後 29

草木性譜(刊年不明)

新六 7

授蒙聖功方↓「セイ」

新二 29

遊興新平家物語(元禄十六年版)

反後 29

曾我物語(寛文十一年版)

別 30

春色梅曆(天保三年版)

新二 29

新編鎌倉志↓「カマ」

反後 29

大般若経(宋版)

別 3

潤色栄花娘(刊年不明)

反前 26

新編事文類聚翰墨全書↓「ジモ」

別 9

大般若経

別 3

春色辰巳園(天保四年版)

反前 46

水経(明版)

別 9

大般若経

別 3

浄印法門経(明版)

別 7

翠釜亭戯面譜(天明二年版)

反前 36

大般若経

別 3

貞永式目(刊年不明)

新七 3

杉楊枝(延宝八年版)

反後 14

(寛永頃古活字天海版)

落 16

貞永式目抄(古活字慶長元和頃版)

落 35

逆心墨染桜(刊年不明)

新二 18

大般若経(春日版)

別 14

貞観政要(古活字伏見版慶長五年版)

落 20

住吉相生物語(延宝六年版)

反前 9

太平記

落 19

城西聯句(古活字元和四年木室二兵衛版)

別 22

摺仏(平安中期版)

別 12

(古活字慶長八年富春堂版)

落 19

串戯二日酔(文化八年版)

新二 23

授蒙聖功方(古活字元和寛永頃版)

落 28

(古活字寛永元年版)

別 21

浄土名目図(永正五年版か)

別 18

世間長者容気(宝曆四年版)

反後 43

太平武鑑(元禄九年版)

新七 4

他我身の上(明暦三年版)	反前2・新一10	当世誰が身の上(宝永七年版)	反後33・新二6	はちかつぎ(宝永二年版)	反後16
伊達娘恋緋鹿子(刊年不明)	新一22	見古屋道中膝栗毛(文化十二年版)	新二24	初衣抄(天明七年版)	新二18
千尋日本織(宝永四年版)	反後32	渡世商軍談(刊年不明)	反後47	武藏播磨石(正徳元年版)	反後34
茶家醉古集(刊年不明)	新六22	渡世伝授車(元文二年版)	反後42	万宝庭訓往来(正徳五年版)	新七19
茶の子餅(安永三年版か)	新一14	な行		鴨宮老楼志↓「オユ」	
茶番口切のせりふ↓「クチ」				東海膝栗毛(刊年不明)	新二21
中華手本唐人蔵(寛政八年版)	反前40			一宵話↓「イツ」	
中庸抄(古活字寛永二年版)	落34	長崎夜話草(刊年不明)	新七6	一夜船(正徳二年版)	
重修政和証類本草(古活字元和頃版)	落18・25	見古屋道中膝栗毛↓「ドウ」		反後35・新一11・新二8	
地理大全(朝鮮古活字版)	別10	仁王般若経(文安元年東寺版)	別15	百人一首和歌初衣抄↓「ハツ」	
徒然時世粧(享保六年版)	反前24	日本契情始(明和四年版)	反後45	百人一首像讚抄(延宝六年鱗形屋版)	別32
つれづれ草(元禄四年版)	別34	日本書紀		拍子舞紅梅館(文政十年版か)	新一21
出来齋京土産(延宝六年版)	反後13・新一2	(古活字慶長元和頃版)	落10	標題句解孔子家語↓「コウ」	
天神記(刊年不明)	新一12	(寛永頃版)	新七1	風俗金魚伝(天保八年版)	新一23
東海道元禄曾我物語↓「ゲン」		日本名女咄(天和二年版)	反前10	風流曲三味線(宝永七年版)	反前19
東海膝栗毛↓「ヒザ」		女人愛執録(元文五年版)	新七16	風流神代巻(元禄十五年版)	反後26
東海道名所記(万治頃版)	反後3・新一6	涅槃経疏(寛永頃古活字叡山版)	別24	風流虫合戦(刊年不明)	反後48
桃山人夜話(天保十二年版)	反前48	涅槃経↓「ダイ」		風流流平家(正徳五年版)	反後37・新二10
頭書訓蒙図彙大成↓「キン」		農民太平記(刊年不明)	反後49	風流日本莊子(元禄十五年版)	反後25
東坡先生詩(五山版)	別16	は行		富嶽百景二編(天保六年版)	反前47
当世御伽曾我(刊年不明)	反後50			婦人養草(元禄頃版)	反前11
当世染戯場雛形(文政六年版か)	新一19	拍翠風草紙↓「コガ」		扶桑孝子伝(刊年不明)	新六28

武藏播磨石下「ハリ」

武道伝来記（貞享四年版）

平家物語

（古活字元和寛永頃版）

（古活字寛永頃版）

平治物語（古活字元和寛永頃版）

碧巖録（五山版）

弁慶物語（古活字慶長元和頃版）

保元物語（寛永三年版丹緑本）

宝物集（刊年不明）

発句題叢（天保頃版）

本朝桜陰比事（元禄二年版）

本朝食鑑（元禄十年版）

本朝新堪忍記（宝永五年版）

ま 行

摩訶般若波羅蜜經（古活字天海版）

見ぬ京物語（万治二年版）

都名所図会（天明六年版）

昔男時世粧（享保十六年版）

名区小景（刊年不明）

孟子（木活字版）

孟子抄（古活字元和寛永頃版）

毛詩鈔（古活字寛永頃版）

や 行

山城四季物語（延宝二年版）

倭詞接木花（明和六年版）

遊興新平家物語↓「シン」

由良三郎景村（元禄十四年版）

百合稚錦嶋（宝曆二年版）

用捨箱（刊年不明）

世上洒落見絵図（寛政三年版）

ら 行

蘭齋画譜（享和元年版）

料理山海郷（刊年不明）

料理分類いろは庖丁（刊年不明）

料理物語（慶安頃版）

類字名所和歌集（古活字元和頃版）

類聚方（明和元年版）

聯珠詩格（朝鮮古活字版）

蓮如上人御文（文禄慶長頃版）

露休しかた咄（刊年不明）

わ 行

倭漢皇統編年合運図（寛永七年版） 新七 2

和国玉かつら（宝永六年版） 反前 18・新 1 9

倭玉篇（慶長頃版） 新六 13

和名集（寛永頃版） 新六 3

*

〔逸題〕

浮世草子（刊年不明） 反前 14

漢籍（古活字寛永頃版） 落 2

曾我物（刊年不明） 新二 30

仏書（古活字寛永頃版） 落 21

本草書（古活字寛永頃版） 落 37

別 27

反後 4

新七 7

反後 39・新 2 9

新七 11

落 23

落 9

落 33

反後 12

反前 34

反前 15

反前 31

新 1 17

反前 38

反前 42

新六 19

新六 20

新六 18

新六 11

新六 4

落 4

別 19

新二 14